

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-133	15-133 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Trend in alcohol and tobacco use among Brazilian students: 1989 to 2010 ブラジル人学生における飲酒者および喫煙者の動向 (1989-2010)		
<b>執筆者</b>		
Sanchez ZM, Prado MC1, Sanudo A, Carlini EA, Nappo SA, Martins SS.		
<b>掲載誌</b>		
Rev Saude Publica. 2015;49:70. doi: 10.1590/S0034-8910.2015049005860.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒の動向、喫煙の動向、学生、思春期の行動		26465662
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> ブラジル人学生における飲酒者および喫煙者の動向を調査する。</p> <p><b>方法：</b> 1989、1993、1997、2004、2010年の横断調査のデータを用いて解析を行った。対象は、全ての調査年にデータ収集が可能なブラジルの10大都市の公立学校に通う第6学年から第12学年の学生104,104名（平均年齢13歳）であった。10都市は、それぞれ文化、経済、社会、気候及び人種の異なる5つの地域を示している。過去1年間の飲酒および喫煙に関するデータは、各学校の教室でWHOの自記式質問紙を用いて収集された。また、傾向性のカイ2乗検定により各都市の飲酒者および喫煙者割合の年次推移の傾向を検討した。</p> <p><b>結果：</b> 10大都市の飲酒者の割合は21年間（1989-2010）で有意に減少し（<math>p&lt;0.001</math>）、特に2004-2010年の間に大きく変化した。この傾向は、地域別にみても同様であった。期間中、飲酒者が最も多かったのは1993年の南部ベロオリゾンテで72.8%であった。一方、2010年北部のベレンで最も少なく30.6%であった。喫煙者の割合もまた8都市で有意に減少し（<math>p&lt;0.001</math>）、特に2004-2010年における減少が顕著であった。1997年南部のクリチバで喫煙者の割合が28.0%と最も多く、一方で2010年サンパウロにおいて7.8%と最も少なかった。</p> <p><b>結論：</b> 学生の飲酒者と喫煙者の割合は1989-2010年で減少し、包括的な飲酒と喫煙の規制によるものであると考えられた。しかし、飲酒者の割合は未だすべての都市において高いままである。</p>		